

日航マラソンの歴史

第三〇回記念大会を前に

関 井 栄 二

千歳市体育協会振興課長

一、千歳JAL国際マラソンの始まり

二〇〇九年六月七日、全国から一万人を越えるランナーを迎え、第二九回千歳JAL国際マラソンが開催された。

この大会のはじまりは、ちょうど三〇年前の昭和五十六年にさかのぼる。この年、日本航空は千歳空港にとって初めての国際定期便となる成田経由のホノルル線を就航させた。同年七月五日、第一回千歳日航ポピュラーマラソンが、千歳小学校グラウンドをスタート・ゴール、支笏湖国有林道をコースとする大会として開催された。

第一回大会は日本航空及び財団法人全国マラソン後援会並びに日本健康マラソンクラブ総連合会による主催であった。千歳市、千歳市教育委員会、千歳市体育協会、社団法人国民健康・体力づくり運動協会、北海道新聞社、北海道高齢者協会が後援し、また、林道を管理する営林署や株式会社伊藤組の協力を得ながら開催された。

第一回目という経験のなさに、時季外れの寒さや強雨という最悪の気象状況が加わり、後述の座談会でも話されるが、準備や選手への対応など無事に終了するまで奮闘したスタッフにとって、最も印象深い大会となった。

そもそものきっかけは次のとおりである。昭和五十年から平成五年まで一八年間、千歳陸上競技協会会長を務めていた田中実は、趣味と視察

を兼ねて道内外のマラソン大会に参加していた。青梅・多摩川マラソンなどに参加したとき、日本陸上競技連盟の役員に千歳でのマラソン大会開催を相談した。これが第一歩となる。

そして、昭和二十六年に千歳・羽田間に定期便を開設してから三〇年を迎えた日本航空千歳支店が、記念となる企画を検討していたことと合致することになる。この年は前述したように千歳空港に初めての国際定期便が就航する年でもあった。空港の存在がきっかけとなり、豊かな自然が参加者を惹きつける、まさに千歳ならではの大会が誕生した。

二、大会の変遷

開催月、コース、参加者等の変遷については表・1のとおりである。開催月は真夏の暑さを避け、参加者の安全面を考え七月から九月へ、さらに、旅行の繁忙期を避けさわやかな初夏の六月へと変更している。

当初千歳小学校、スポーツセンター周辺をスタート・ゴールとしていたコースは、第七回から第一三回は中心街のभीりもと商店前スタートに変更する。市民の目に触れ、沿道での応援による盛り上がりを図ったものである。関係者が奔走して実現したものであったが、道路規制等の警備、バス路線への影響、安全上の問題から、青葉公園からのスタートへ変更している。第一四回からはほぼ現在の形式となっている。

二三〇〇名だった第一回目の参加者数は、年々増加の一途を辿り、現在は、健康志向によるマラソンブームの後押しもあり約四・五倍の一万四〇〇名を超えている。

また、表の「天候」欄を見ると、二九回中、降雨は五回と天候に恵まれている。雨天となった大会は、なぜか節目となる開催月やスタート地点・コース変更時に集中しているのがおもしろい。

表-1 千歳JAL国際マラソン参加数等推移

回	大会名	開催日	申込数	増減	出発地点	ゴール地点	天候	最高気温	道外	海外
1	千歳日航ポピュラーマラソン	1981.7.5	2,271		千歳小学校 グラウンド	千歳小学校 グラウンド	雨 23mm	10.0	199	0
2	千歳日航国際ポピュラーマラソン	1982.7.4	1,919	△ 352	スポーツセンター横 青葉公園橋横	スポーツセンター横 青葉多目的広場	晴	20.0	75	0
3	〃	1983.7.3	2,748	829	〃	〃	晴	12.0	174	19
4	〃	1984.7.1	4,631	1,883	〃	〃	晴	24.0	362	38
5	〃	1985.7.7	5,135	504	〃	〃	曇	18.0	516	19
6	千歳・日航国際マラソン	1986.7.6	6,009	874	〃	〃	晴	21.0	555	24
7	〃	1987.7.5	5,821	△ 188	千代田町 もりもと向	〃	晴	25.0	527	4
8	〃	1988.7.3	5,142	△ 679	〃	〃	曇	14.0	431	11
9	〃	1989.7.2	5,407	265	〃	〃	曇	12.0	411	3
10	〃	1990.7.1	5,414	7	〃	〃	晴	18.0	452	10
11	〃	1991.7.7	5,267	△ 147	〃	〃	曇	16.0	547	4
12	〃	1992.7.5	5,220	△ 47	〃	〃	快晴	22.0	464	2
13	〃	1993.7.4	5,719	499	〃	〃	快晴	21.0	529	2
14	〃	1994.9.11	5,435	△ 284	青葉公園内	〃	雨 6mm	21.0	778	1
15	〃	1995.9.10	6,369	934	〃	〃	晴	21.0	728	1
16	〃	1996.9.8	7,020	651	〃	〃	晴	23.0	777	1
17	〃	1997.9.14	7,051	31	〃	スポーツセンター横	晴	21.0	728	3
18	〃	1998.9.10	6,831	△ 220	〃	〃	快晴	22.0	751	0
19	〃	1999.9.12	7,300	469	〃	〃	曇	24.0	808	0
20	〃	2000.9.10	7,400	100	〃	〃	曇のち雨	20.0	925	7
21	〃	2001.9.9	7,065	△ 335	〃	〃	雨 0mm	15.3	932	0
22	〃	2002.9.8	7,181	116	〃	〃	晴	22.0	994	0
23	千歳 JAL 国際マラソン	2003.6.1	6,992	△ 189	〃	〃	雨 20mm	15.0	831	0
24	〃	2004.6.6	7,701	709	〃	〃	晴	21.5	906	9
25	〃	2005.6.5	7,064	△ 637	〃	〃	曇のち晴	19.8	912	8
26	〃	2006.6.4	7,968	904	〃	〃	晴のち曇	17.3	935	12
27	〃	2007.6.3	9,498	2,434	〃	〃	曇のち晴	14.1	1275	16
28	〃	2008.6.1	9,911	413	〃	〃	雨 14mm	10.0	1304	26
29	〃	2009.6.7	10,424	513	〃	〃	雨 6mm	18.5	1706	29



第1回大会パンフレット



第3回大会Tシャツ

この大会は日本陸上競技連盟の公認ではないが、三キロ・一〇キロ・ハーフ・フルの四コース二六種類という種目が豊富な市民マラソンである。そしてフルマラソンの四分の三は未舗装の緑の林道で足に優しく、制限時間も六時間とゆるやかであること、そして豊かな自然林の中を森林浴ランを楽しむことができる全国でも珍しいコースであるため、リピーターの多いことも特徴である。

そして株式会社ランナーズが主催するランニングの人気投票とも言える「全国ランニング大会一〇〇撰」に一二年連続で選ばれるなど、ランナーの間では人気と知名度のある大会となっている（全国で一五〇〇とも二〇〇〇ともいわれる大会の中から、一二年連続で選出された大会は当大会を含め二〇大会のみ）。

現在のメインキャラクターであるトウモロコシ色の「ラン坊」が登場したのは、九月に開催が変更された平成六年の第一四回大会である。ポスターをはじめ参加賞タオルやフル・ハーフマラソン完走者のみが手にするTシャツにもプリントされ、黄色と緑色のキャラクターを見ると千歳JAL国際マラソンが連想されるほどランナーの間に定着している。

三、座談会

全国各地からの参加者が一万人を超えるほど大きく成長した大会を、第一回から支え育ててきた五人による座談会の内容を紹介する。

日時 平成二十一年十一月十一日（水）

場所 ホテル日航千歳（会議室）

出席者 田中 実（昭和五十年～平成五年 千歳陸上競技協会会長）

柏本博明（昭和五十三年～五十四年 千歳陸上競技協会理事長）

（昭和五十五年～平成五年 千歳陸上競技協会副会長）

西内 一（昭和五十六年～平成四年 千歳市体育協会理事長）

（平成五年～十五年 千歳市体育協会副会長）

野田善郷（昭和四十五年～現在 千歳陸上競技協会役員）

大江晃己（昭和五十三年～五十九年 千歳市体育協会事務局担当職員）

員

（昭和六十年～平成六年 千歳市体育協会事務局長）

進行 関井 栄二（千歳市体育協会振興課長）

斉藤 裕巳（千歳市体育協会振興課振興係）

中村 康文（千歳市総務部主幹付主査 市史編さん担当）

進行 来年で三〇回の記念大会を迎えることとなりました。連続出場

者も一六名おり、他の功労者も含め、できれば表彰等行いたいとも考えています。市史との絡みもあり、本日は良い機会となりました。宜しく願います。

田中 羽田～千歳間に定期便が開設されて三〇年経つので、当時の日

航千歳空港支店から何か良い大会が出来ないかと聞いていた。それで日本陸連に話をした。

西内 千歳にジェット機が降り三〇年たつので・・・と聞いていた。細かい話は判らず、会長の意向に従った。

大江 事務方として、千歳陸連が本当に出来るのか・・・との確認をした。

田中 当時、千歳陸連としてそれだけの力がなかった。

大江 二回目までは日航が主催で、運営は体育協会がやることとなったが、三回目以降は体育協会も新たに主催に加わった。

柏本 満足の機械も道具もなく、当時は大変苦労した。二空団からゴール用ポール等借りてきて行なった。

野田 ゴールに沢山の選手が並び、第一回目は雨は降るし、タイムも取れず大変だった。

大江 当初二〇〇〇名だったが、次は三〇〇〇名となりそんなに増えるとは思っていなかった。

西内 体協役員を四二年間やったが、

そのときマイクを握り「只今から、千歳日航ポピュラーマラソンを開始します」・・・と、その後、田中会長から挨拶をいただいたことを今思い出した。

大江 千歳陸連も当時は十五～十六人しかいなかった。事務方で苦労したが、体育指導委員もスポーツ指導員も朝晩かけて本当に手伝ってくれた。今、委託しているものも含め、全部自分たち



座談会の様子（左から大江、西内、野田、柏本、田中）

で行なった。当時は全て手作りだった。

西内 当時、体協は新谷課長、大江さん、田中さん、陸協からは田中さん、私と朝六時から天幕を張り、終わったらまた撤収し大変だった。

柏本 当時はコースを石灰で書いたが雨で全部流され、スズランテープも風で飛び、四時くらいから全部やり直し一回目は何とか開催した。終わった後も記録ですったもんだがあった。

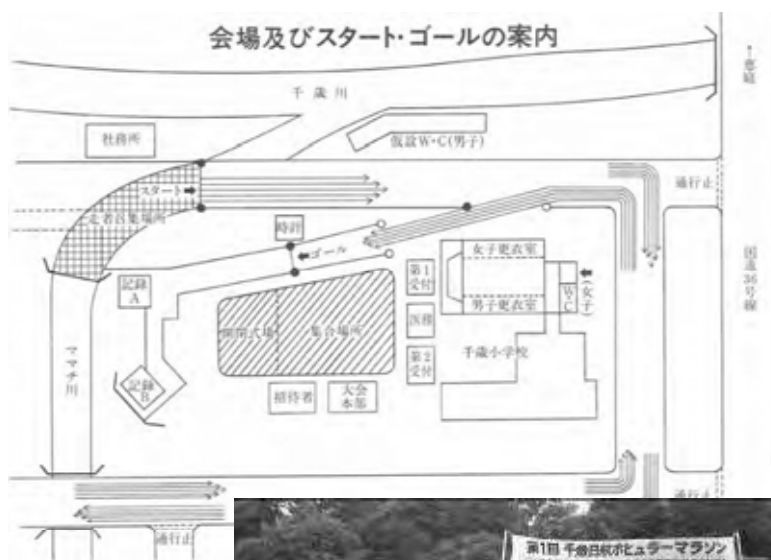
大江 砂利道の関係でも問題となった。二日前に日本陸連幹部がコースの下見に来て、こんなところ選手に走らせられないとのことから、体育指導委員やスポーツ指導員を集め、竹ぼうき持たせて全部横に寄せたこともあった。

柏本 林道走り、(折り返して)また戻って・・・道幅も今の三分の二位しかなく林道では枝がぶら下がっているのでバスも嫌がり、救急車は走れない程ひどかった。

大江 我々も素人であり、テレビで給水係はだいたい女の人の人との感覚で給水係に女性を張り付けたはよいが、女性のトイレ対策まで考えておらず・・・加えて大雨、三〜四時間以上走る予定の選手も食べ物を持っておらず、その人達から貰って食べたり、しまいは着るものまで借りていた。

西内 売店も数軒(農協の売店、浅利商店等)しかなく食べ物があった。また、防衛庁の北部方面の幹部も視察にきたが、誰も顔を判らなく対応できなかった。たまたま、田中会長と私が知っていたから来賓席に案内するなど出来てよかったが・・・顔を知ってるって事は大切だなと思う。

大江 雨で色々苦労したが、一回目の大雨が逆によかった。それが教



第1回大会会場(パンフレットより)とスタート風景



訓 となり、二回目以降雨対策が万全となった。当時山間部はやぶ蚊も多く、役員も選手も大変だった。特に、降雨後が凄かった。
柏本 林道の沿道には一人ずつ付けたが、雨の中暗く皆怖がり二人ずつ付けたら、女性のトイレ対策も・・・

田中 実際には出なかったが、あそこは熊が出る所だしといって選手が怖がっていた。



第1回大会は雨風の中、スタッフはずぶぬれで参加者を懸命にサポートした。

柏本 人が走っているときや大きな声を出しているときは出てこないが・・・

進行 事前に走れないですか・・・との問い合わせもくるが、あそこは熊が出る所だし危ないから入らないでくださいと言えば、皆そうですねと納得する。人が沢山いるときは出ないでしょうけど・・・

野田 マラソン前日に枝払いした後、見に行ったら木がばっさり倒れていて、熊がコクワを食べるために木に登ったらしくビックリしたこともあった。

大江 営林署も、昔は恵庭と苫小牧にあったが、草刈をやってくれたり大変協力いただいた。また、大会時期人も二〇人位出してくれた。

柏本 給水等も自ら担当していただいた。

大江 道路の砂利敷きを火山灰で対応してくれるなど協力いただいてきたが、それがずっと引き継がれてきている。

野田 どうしても道路が落ち込み、雪融け時に川となるから側溝を掘ってほしいということもあった。それで全線側溝を掘った。

大江 これらは、国有林の開放政策的なものや職員の方々の協力があったからできたと思う。

西内 自衛官の人達も三〇四年で地元に戻ってしまうが、募集を見て千歳を懐かしく思い参加してくれたり、私たちも友人の歓迎会を開いたりしたが、その頃から自衛隊の協力は大変なものだった。

田中 当時市内に若者はいなかった。自分の商売や農家の手伝いに行ったりで、幸いにして自衛隊がいたから何とかできた。

大江 トウキビも余り予算がないので体協から農家に安く作付依頼し、収穫と茹でるのは十一連隊に頼み・・・剥くのは体育指導委員とスポーツ指導員及び各単協の婦人が担当しながら二年位続けた。朝もぎでなければ味が落ちるので、その辺も考えながら六〇〇〇〜七〇〇〇本用意するのはもの凄く大変だった。

野田 スタートが、一回目は千歳小学校、二回目からはスポーツセンターに変わった。スポーツセンターの多目的広場に集めたが、選手が多く並びきれなくて、グラウンドをグルット一回りしたり、支笏湖通りまで延ばしたり・・・

田中 そこも狭くなり、体育協会の理事長だった奥野文蔵氏がもりもとさん、スギハラさん、大橋さんなどに相談し、もりもと商店前スタートとなった。

柏本 もりもと前スタート時は選手集合を千歳中学校とし、荷物はス

ポーツセンターに預け、そこから中学校まで選手を誘導していった（七月の暖かい時期でもあり、そのことに関しては文句が出なかった）。

田中 今は、もりもと前スタートは警備や安全上の問題から出来ないと思うが、当時は朝早く八時三十分には選手も出発しているし、人数も少なかったから出来たと思う。

大江 七月だから寒くもなく良かった。

柏本 商店も無く、また、朝早いため開店していなく、選手が途中牛乳を飲みたくとも飲めなかった。

田中 それを言われる度、申し訳ない気持ちで一杯だった。

柏本 もりもと前スタートが一番大変だった。選手は千歳中学校で着替え、荷物を預かりスポーツセンターまで運んだ。

野田 預かった荷物も無くならなくて、案外上手くいっていた。幸にして荷物が少なく、小型トラックで二〜三回で運べた。五〇〇〇人分だったが、七月で寒くなかったのと雨も少なかったたのでそれで済んだのだと思う。

田中 今まで、案外雨も降らなかった。雨が降ったのは、スタートを変えた時くらいで過去五回しかない。

大江 こちらが晴れていて、支笏湖方面が降っていたこともあった。
野田 一四回がそうだ。七月のとき、濃霧がかかっていたこともあった。

柏本 今は温暖化で六月でもよいが、一九八一年頃であれば寒くてできなかったと思う。

大江 第一回目は凄く寒かった。スポーツ指導員のユニフォームを選手に貸したはいいが、殆ど返ってこなかった。第一回目の時、終



街中コース図（第9回大会パンフレットより）



第8回大会（昭和63年：もりもと前スタート）

って皆帰った後、千歳小学校の校長から「明日学校を開けられない、見に来てくれ」と言われ見に行ったが、トイレが砂だらけ（雨も予想しておらず、土足だった）。それから皆で掃除しにいった。

野田 千歳中学校のときは女性のトイレのみ貸してもらい靴を脱いでもらって利用した。男性は仮設トイレを使った。

大江 高速道路インターチェンジの横断が大変だった。数分止まると料金所まで車が繋がり、運転手の人から相当文句を言われた。

柏本 気持ちを和らげるために、JALのスクワデスが制服を着て飴を配ったりもした。

進行 街中スタートはどのような経過か？

田中 一つは市民が見るところが何もないだろうとのことで、駅から真っ直ぐ国道36号に向かってどうかとの話であった。

柏本 警備や安全上の関係で使用許可がおりなかった。

大江 当時、バスが通っていたこともあり最低止められるのは仲の橋通りのみとのことで、もりもと前スタートとなった。

進行 街中との関係は？

田中 パンフレットを配り、店によってはお客さんに見れるように張って貰ったりした。

進行 昔は人を使っていたが、今は、店主が自ら店番しなければならぬ難しい状況にあるのでしょうか。

田中 店を休むのではなく、当時、要はマラソンの宣伝をして下さいとのことだけだったが、商店街で短冊を作って各商店に配ってくれたり協力頂いた。

もりもとと体育協会元理事長が話し合っただけで横断幕を作ったりしてくれただけでなく、店として宣伝して

ください（応援していますよ・・・）とのことだけ。

大江 街中スタートの話は第一回からあった。ただ、警察から警備上、安全上難しいと言われた（国道36号も駅前通りも、バスを全面的に止めることになる）。

田中 教訓として、コースを間違わないようにしなければならない。一度間違ったことがあり（第一三回大会）、「俺が一番なのに何で・・・」と言われたこともあった。

進行 一〇^キが複雑ですね・・・よく誘導間違いが・・・。

野田 今は看板を掲げているから一〇^キも問題ない。

柏本 女の人も一〇^キで間違った人がいた。

進行 このほか、苦労したこととかは？

大江 最後に時間過ぎて帰ってきた選手が、何で片付けるんだと言う人もいた。

柏本 時間過ぎてからもバスに乗ってくれない人もいた。

野田 完走Tシャツを欲しくて走る人がおり、（完走してないのに）「どうしても欲しい」と懇願されたりと、人気が高かった。

進行 青葉公園スタートへの変更理由は？

柏本 最大要因は警備と安全上の問題。

大江 その頃、高校も街中で走っていたが、全て取り止めとなった。航空学園（強歩）も止めている。

田中 後々、選手の方から「若葉の森林地域を走るのはこの大会のみで非常に感動する」との話もあった。また、当初「車イス」や障害者の方の参加もいただいたが、コース変更で参加が少なくなってきた。これまで色々苦労もあったが、ボランティア始め多くの方々の協力によりこの大会は成り立ってきた。大変感謝する。

進行 時間が来てしまい、誠に申し訳ありませんが、この辺で本座談

会を閉じさせていただきます。本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

四、おわりに

座談会に参加したメンバー以外にも多くの本大会に関わってきた関係者、参加していただいたランナー、そして市民からの温かい見守り応援により、平成二十二年は記念すべき三〇回目を迎えようとしている。

今回新たな企画として、全国から集まる人たちで走らない方にも千歳の自然を楽しんでいただけるよう、ウォーキング種目を新設し、また、会場周辺には北海道の春を代表するスズラン・ライラックを植栽する。そして、雪を保存し、冷熱エネルギーを利用したエコ「スポーツドリンク」及び新緑の中の「白い雪だるま」で歓迎することにも挑戦する。

今後も、樽前山麓に広がる支笏洞爺国立公園内林道をコースとする、他にはない素晴らしい自然環境の中、環境に優しい大会として、参加選手のさらなる満足度の充実を図っていきたい。